



# 前橋育英高校報

題字 中村有三 名誉理事長

建学の精神 ～正直・純潔・無私・愛～

# 育英で輝く



## 創立48周年 卒業生は2万人を超えました

- 育英でさらに輝くためには!?・・・P2.7
- 卒業生は、今何してる? ……………P6
- 部活動は今年も絶好調!……………P3.8

## CONTENTS

PAGE

▶ 2・3



▶ 4・5



▶ 6



▶ 7



▶ 8



【特集】  
50周年に向けて  
座談会  
【進路・スポーツ実績】

【保護者会だより】  
進路講演会／文化講演会／  
吹奏楽部定期演奏会／  
スポーツレクリエーション

【同窓会だより】  
同窓会長挨拶／  
親子二代同窓生／  
私の近況報告

【後援会だより】  
後援会長挨拶／  
総会報告／合同研修会  
コラム育英

【トピックス】  
SPP／硬式野球部／  
明石杯英語コンテスト  
サッカー部 etc...

# 特集 ～50周年に向けて～【座談会】前橋育英の不易流行



## 出席者(敬称略)

- 名誉理事長 中村 有三
- 理事長 中村 義寛
- 校長 小茂田 恵三
- 副校長 竹淵 敏

昨年12月に発行された前橋育英高校報「特集 50周年に向けて」の「創立者に聞く」に引き続き、今回は座談会形式で、「前橋育英の不易流行」を語っていただきました。新たに中村義寛理事長、小茂田恵三校長に加わっていただき、積み重ねた歴史を振り返るだけでなく、これから先の50年を展望してみました。

竹淵 敏 副校長

## 新たな50年に向けて

### 一中村有三 名誉理事長

MRAの精神はそもそも「絶対」という表現がついていたのです。「絶対正直・絶対純潔・絶対無私・絶対愛」という非常に厳しい条件がついていました。あまりに堅苦しい、厳しすぎるのも却って(学校が)成熟していないと説得力がない。教師



中村 名誉理事長

がやれないことを生徒に押しつけられないというもあり、といって、一旦掲げた精神を今更きついでからといって取り下げるわけにもいかず、悩んだこともありました。

### 一小茂田恵三 校長

ただ、MRAの精神というのは、例えば見学会等で(校長挨拶として)話をするわけですが、社会貢献という意味では非常に説得力がある、よく聞いてくれるし、決して古くなってはいない。むしろ今後ますます重要になってくるものだと思います。

### 一中村義寛 理事長

社会貢献はもっとすべきだと思いますね。部活動ごとに地域清掃などの地域との連携は行っていますが、一般生徒全体でやっていくことも必要でしょう。

### 一竹淵敏 副校長

以前、小茂田校長が何かの文章で「不易流行」という言葉を挙げてお話しされていたのを記憶しています。まさに建学の精神こそが「不易流行」であって、変わらず守り続けてきた永遠性を、(様々に変化する)現代或いは未来にどう生かすかだと思ふんです。前回、名誉理事長にインタビューさせていただいたときにおっしゃっていましたが、推薦試験を導入されたのも一番早かったし、



竹淵 副校長

コース制の導入もそうです。つまり、群馬の私学の中で前橋育英こそがフロントランナーの役割を果たしているんですね。ですから、今度、次にうちが何をやっていくかがかなり重要なことになってくると思ふんです。

### 一小茂田恵三 校長

今も時々議論するんですが、公立の授業料無償化を端的に言うと無個性化につながるわけです。当然私立はお金がかかりますが、こういう個性を持っているという、個性が際立つんですよ。私学がある意味、存在意義を確固たるものにするかは、今、竹淵副校長が言っていたように、依って立つところの建学精神をどう教育実践の中に盛り込めるかではないでしょうか。具体的にいうと、文武両道という校風が一つの手がかりではないでしょうか。卑近な言い方ですが、耐震工事を今進めています。次に第一体育館の新築があって、次にどうするか。ハード面のビジョンを立ててソフト面の充実を図るということでしょう。現在四つに類型化されている普通科、それと保育科、これをどういう形で展開していくかでしょうね。そのためにはハード面では文化施設が必要だろうと。進学棟なり、文化棟なり図書館を核とした施設が。竹淵副校長の案では講堂(ホール)も欲しいんだと。道徳教育を標榜する上では講堂は必要なことも事実ですからね。



小茂田 校長

### 一中村有三 名誉理事長

本当に講堂は欲しいですね。道徳というと、堅苦しく形式ばって聞こえますが、そうではなくて立派な人間というか、心をもった人に優しい人間たれという意味です。今盛んに環境に優しいとかそういう言葉が強調されていますが、「共に生きる」「いのち」という言葉が今、幼稚園でも相当使われています。本校の学生にも、「どうやって生きるのだ」「地域社会にどう貢献するのか」ということ、何も物を与えるとか、やらされてするということではなく、そういう精神をどのように生徒達に伝えていくかということ、論理的、具体的に納得させることが重要なわけです。

教育の目的は人間形成だから、高等学校も人間教育の場として位置づけられます。大学に行くことが立派な社会人として世に貢献するための期間であるとすれば、その前段階としての高校教育のあり方と、その実践が大切であるの言うまでもありません。そういう意味で、素直に

実践していく雰囲気作りや生徒が進んでやれる環境作りが大切で、これはうちの四つの建学の精神と符合するんじゃないでしょうか。

### 一中村義寛 理事長

私自身、予備校(群馬英数学館)で進学指導もしてきましたが、育英高校は特進や進学だけでなく、スポーツ科学や保育の生徒の進学実績を向上させること、単に有名な大学に行けさえすればいいということではなく、希望する進路に進めるという、学生達が満足できる学校にしていくことが理想です。それと、単願者、つまり前橋育英に行きたいという中学生や保護者が増えることです。先ほど話に出ていた進学棟などの施設の充実ももちろん必要ですし、後はそれぞれの生徒の目的にあったシステム作りが急務であるわけです。

つまり、特進や総合進学だけでなく、スポーツ科学や保育の生徒も勉強したり調べたりできる施設があって、好きなときに学習できる環境作りですね。50周年より前に体育館は完成するので、次のハード面の充実を図ることと、スポーツの育英を生かしつつ学力の育英を標榜していくことが次の50年に向けての方策だと思います。



中村 理事長



## 座談会を終えて

座談会形式で約一時間ほど語り合っていたいただきましたが、紙幅の関係で全て網羅できなかったのが残念です。図書館や学習環境を整備するための文化施設構想など、新たな話題も出てくる中しみじみ感じたことは「教育はロマン」だということでした。そういえば、みんなロマンチストの顔していますね。(竹淵)

### 保健室で鍼灸治療スタート!!

前橋育英高校の運動部を支えるバックアップ体制がさらに充実し、育英メデイカルに勤務する鍼灸学科の先生による治療が毎週月曜日に行われています。

常にスポーツ障害や怪我と背中合わせでトレーニングに励むトップアスリートにとっては、かけがえのないコンディショニングの支えとなっています。



## 進路

~きっと見つかる、色んな夢~

### 過去3年間進路実績

大学合格者数  
**1,214名**  
(現役1,089名)

国立大学合格者数  
**116名**  
(現役99名)

私立大学合格者数  
**1,098名**  
(現役990名)

### 進学合宿

昨年引き続き、新潟県のニューグリーンピア津南を会場に、7月22日〜25日の日程で実施しました。今年は参加人数がやや少なめでしたが、生徒の意識は高く、全員が実のある充実した時間を送ることが出来ました。進学合宿を初めて経験する生徒にとっては最初、不安もあった様ですが、時間の経過と共に不安も払拭され、自分にも出来るのだという自信に変化していく過程が見受けられました。生徒の感想文には達成感・自己の再発見・受験への抱負など、これからの高校生活を前向きに考えるものが多く見られました。

### キャリア教育

4月は進路指導部より、主に大学卒業後の現在の深刻な状況に関する講演を、9月には経済同友会の「社会人講師派遣事業」という日本の将来を担う若年層に健全な職業観や勤労観を育んでもらうための事業の一環として、企業のトップに立つお二人に講演を頂きました。11月には1〜2学年でLHRの時間を使い、各クラス担任による「職業の種類」についての授業を実施しました。

### 保育科講演会



保育科行事として7月8日、本校保育科の卒業生、川嶋美緒さんに講師をお願いし、学校生活や進路に関するアドバイス、保育園幼稚園勤務の経験談をお聞きしました。

高校時に作成したバクちゃん人形も登場。腹話術や手遊びを交えての実践的で楽しい講演会となりました。

### 進路ガイダンス

3年生は6月、1〜2年生は11月に内外を代表する大学、短大、専門学校等の教職員を招き、全体会・各分野別講義(二人2講座)といった時間割で実施しました。内容は各学年の実態に合わせてものでしたが、各学年とも大学、短大、専門学校や就職、公務員希望と生徒の希望分野に対応した講義構成だったため、生徒にとっては希望大学の先生の生の声が聞けるとあって、講義終了後も質問の生徒で賑わっていました。

### 大学見学



10月8日、秋休みを利用し、普通科は首都圏の大学見学、保育科は育英短期大学見学を実施しました。普段個人では見ることが出来ない大学独特の施設巡りや、そこで学ぶ在学生の説明を直接聞く等、貴重な体験をさせて頂きました。また、お昼は大学の学食やカフェテリアで大学生と一緒にランチタイムを過ごし、学生からの声を聞くことも出来た様子です。また、保育科でも育英短大から全面的な協力を頂き、実際の授業を体験させて頂くなど、とても充実した見学が出来ました。

## スポーツ実績

## 2010 Summer~Autumn

### 水泳部

#### 群馬県高等学校総合体育大会(水泳)

男子(優勝のみを記載)  
学校対抗 総合優勝  
\*4年連続16回目

#### 競泳

- ・200m自由形 太田佳吾(2-11)
- ・400m自由形 新井 亮(2-9)
- ・100m背泳ぎ 角田隼人(3-A)
- ・100m平泳ぎ 正田達成(3-C)
- ・200m平泳ぎ 正田達成
- ・100mバタフライ 角田隼人 大会新
- ・200m個人メドレー 大野賢也(2-11)
- ・400mフリーリレー(角田→太田→高橋悠真(2-9)→大澤竜也(3-C))
- ・800mフリーリレー(正田→新井→大野→太田)
- ・400mメドレーリレー(大野→正田→角田→太田)

#### 飛込

- ・3m飛板飛込 後藤福寿(1-12)
- ・高飛込 後藤福寿

#### 女子

#### 飛込

- ・3m飛板飛込 中村しづか(2-5) 2位
- ・高飛込 中村しづか 2位

#### 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

- ・800mフリーリレー(太田→須川雅也(1-12)→大野→新井) 5位

### 国民体育大会(千葉国体)

#### 少年男子 出場

#### 競泳

- ・400m自由形 大野賢也
- ・200m平泳ぎ 松崎勝優(1-12)
- ・800mフリーリレー 太田佳吾
- ・800mフリーリレー 新井 亮
- ・800mフリーリレー 須川雅也

#### 飛込

- ・3m飛板飛込 後藤福寿
- ・高飛込 後藤福寿



### 陸上競技部

#### 全国高等学校総合体育大会

- ・走高跳 狩野佑輔(3-B) 出場
- ・三段跳 狩野佑輔 出場
- ・円盤投 吉野順也(2-11) 出場
- ・ハンマー投 栗林瑛一(2-10) 出場
- ・ハンマー投 吉野順也 出場

#### 国民体育大会

- 少年男子A
  - ・円盤投 吉野順也 出場
  - ・やり投 高橋 輝(2-11) 出場

#### 少年男子B

- ・100m 鈴木宏明(1-10) 出場

### バスケットボール部(男子)

#### 全国高等学校総合体育大会

・ベスト16

#### 全国高等学校選抜優勝大会(ウィンターカップ)出場決定



### サッカー部

#### 夏の高校生フットサル大会

・優勝

### ウェイトリフティング部

#### 全国高等学校総合体育大会

・69kg級 石関紗愛(3-2) 3位

#### 関東ウェイトリフティング選手権大会

・63kg級 利根川和子(3-2) 3位

#### 日・韓・中ジュニア交流競技会

・69kg級 石関紗愛 3位

### ボクシング部

#### 全国高等学校総合体育大会

- ・ライトフライ級 本山雄一(3-1) 出場
- ・ライトウェルター級 中澤勇人(3-A) 出場

### テニス部(女子)

#### 全国高等学校総合体育大会

・個人 中東涼子(3-1) 出場

### 柔道部

#### 全国高等学校総合体育大会

団体 出場  
個人

- ・66kg級 白座康雄(3-B) 出場
- ・73kg級 戸部 隆(3-A) 出場
- ・81kg級 丹下大輔(3-A) 出場
- ・90kg級 レイズカヨル(2-11) 出場
- ・100kg超級 田塚康弘(3-C) 出場

#### 全国高等学校体育学科・コース柔道大会

団体 優勝

#### 群馬県高等学校強化選手選考会

- ・60kg級 永井一道(2-10) 優勝
- 箱田圭努(2-10) 2位
- ・66kg級 三留宏之(2-9) 優勝
- ・73kg級 戸室三四郎(2-9) 優勝
- 細谷京亮(1-9) 3位
- ・81kg級 小川雄大(2-9) 2位
- ・90kg級 佐々木崇行(2-10) 優勝
- 辰美優雅(1-10) 3位
- ・100kg級 阿部雅則(2-10) 2位
- ・100kg超級 三浦玲旺(1-10) 2位

### 硬式野球部

#### 秋季関東地区高等学校野球大会

- ・群馬県予選 優勝
- ・群馬県高野連より「21世紀杯」推薦(2年連続)

# 保護者会だより

## 進路講演会



### 進路講演会を終えて

進路委員長 浅見 千秋

毎年行われている進路講演会ですが、今年はテーマを「親子で話すキャリア教育」とし八月に行いました。

進路に関する基調報告の後、本校進路アドバイザーの武井先生に助言者をお願いし保護者の代表五名がパネラーとなるパネルディスカッション形式で実施をさせていただきました。

二〇〇名以上の申し込みをいただき、進路に関しての保護者の方の関心の高さを感じました。

現在の高校生を取りまく環境やキャリア教育の必要性、学校の取り組み等を意見交換する中で、参加していただいた保護者の皆様も一緒に考えていただけたのではないのでしょうか。

「家庭内での子供との会話

が少なくなつたというお話しを学級懇談会などで聞くことがあります。今回のテーマである「親子で話す」を私達が意識をし、子供に語りかけ聞く姿勢を取らなくてはいけない。そう強く感じた進路講演会でした。

### 親と子の接し方： 悩み事の解決は 井戸端会議で!!

二学年委員長 岡田 賢司

今年の進路講演会は、初の試みとして二部構成で行われました。この第二部で行われましたディスカッション(討論会)方式による「悩み事相談井戸端会議」(笑)についてのお話です。

子供が大きくなるにつれて、子育てについての悩み事、特に親と子の接し方については、子供を持つ親として日々頭を悩ませている事柄です。

そこで、子供達との対応に苦慮している私達五人のパネリストが親御さん達の代理として、おのおのが日々の悩み事を持ち寄り、助言役を務める武井先生との井戸端会議(討論形式)にて悩み事相談と、その回答の糸口を模索しました。

今回の進路講演会ディスカッ

ションの中から、小さなヒントだけでも見つけてもらえていれば幸いです。



進路指導主任 金子 雅人

「親子で話すキャリア教育」で大切なことは、家庭でお子さんの将来について、話し合えることです。

現実には、世代の違いから話がかみ合わないと思つて遠慮してしまふこともあると思います。しかし、社会人・職業人として自立している親は子供にとって身近で最も信頼できる「キャリアアカウンセラー」です。焦らず、時に家族でお子さんの十年後について話し合える時間を作るようにして下さい。

## 文化講演会

文化委員長 石原 美佐枝

猛暑もようやく収まった九月二十五日、土曜日午後二時より本校視聴覚室にて、文化講演会が開催されました。

講師は、群馬交響楽団のトランペット奏者、牧野徹先生。「好きこそものの...」という謎めいたタイトルで、私は大きな期待を抱いて当日を迎えました。講演会は名曲「夜空のトランペット」演奏から始まり、美しい音楽の世界へ一気に引き

## 中毛地区高P連

### 中毛地区高P連にて

進路指導副委員長 富澤 典子

今回の研究会ではPTAから四校、生徒から四校の参加で発表が行われました。各校とも特色などしっかりと捉えられており、自校の素晴らしさをアピールしていました。

さて、我が育英ですが、勿論スポーツや進学に力を入れていますが、それだけではどこにでもある高校の一枚にしか過ぎないのです。今回の参加で我が校の特色等を改め直さなくてはと感じました。

込まれました。「北の国からのテーマ」などポピュラーの名曲を中心にクラシックやジャズも織り交ぜての素晴らしい演奏に夢心地になりながら、高校時代の進路選択や音楽家としての歩み・中学生の息子さんに対する父親の心情など牧野先生の気さくなお人柄の滲み出た楽しいお話を伺い、芸術の秋にふさわしい心豊かな時を過ごしました。

文化委員提案による前例のない講演会でしたが快諾くださった前橋育英高校、ご協力頂いた先生方に感謝致します。

## 合同研修視察旅行

保護者会長 小椋 靖晃

第十五回目となる合同視察旅行は神奈川県慶應義塾大学見学と箱根彫刻の森美術館へのコースで行ってきました。創立者が福沢諭吉氏の慶應大学はぜひ一度見学をオススメしたいくらい設備の凄さに心が大学生気分になりました。

箱根では観光客で賑わい、不景気の世の中を吹き飛ばすかのような光景でした。

後援会の皆様と親睦を深められるこの旅行。育英高校の伝統となる一ページが長く続けられればと思います。



# 吹奏楽部



(株)フォトライフ提供

## 22年度 群馬県コンクール

指導者 熊井 正之

平成二十二年度コンクールで二年連続金賞(群馬県代表)を頂きました。今年の演奏曲は、旧約聖書にある名高いエピソードで神の啓示を受けたノアが多く動物をつれて新天地を目指す物語を描いた、アッペルモント作曲「ノアの方舟」です。本校で指導してはじめて四十名となりましたが、毎年編成が思うように組めず頭をいためています。コンクールは自分たちの努力の成果として受け止め、明日からの活動の指針にしたいと思えます。

## 第37回定期演奏会を終えて

顧問 深澤 準一

去る八月十四日、ベイシア文化ホールで第三十七回定期演奏会を開催致しました。当日は八〇〇名に達する方々にご来場頂き、盛大な演奏会となりました。

今年コンクールで二年連続県代表に選出された自負もあり、部員たちの意欲も非常に強かったと実感しています。特にマーチングではフォーメーションや演技の全てを部員だけで作り上げ、音楽に対する熱い情熱を存分に発揮することができたと思います。



(株)フォトライフ提供

# スポーツレクニション交流会



総務委員長 内田 隆夫

保護者会役員、役員OB、教職員の交流を深めるため、九月五日(日)第二体育館にてソフトバレーボールとユニカールの二競技を行いました。九月の記録的な残暑の中、学年チーム、役員OBチーム、教職員チームの4チームでまずは今流行りのソフトバレーボールの競技を行いました。どのチームもハイレベルな戦いぶりです。特にOBチームは他を圧倒するものがありました。いい汗をかいた後は、冬季オリピックで有名なカールリングに似たユニカールを行いました。カールリングの上を柄のついたストーンを的に向かって投げる競技で、ルールもカールリングに似ていま

す。結果は戦略にすぐれた教職員チームが高得点をあげていました。参加者の皆さん、暑い中大変お疲れ様でした。この場をかりて御礼申し上げます。

順位	ソフトバレー	ユニカール
1	OB	2年
2	2年	先生
3	3年1年	OB
4	先生	3年1年



## マナーアツパ

文化副委員長 石原 佐和子

登校時、通学危険箇所を教職員と保護者が分担し立つマナーアップ運動。声かけに素通りする子、軽く挨拶が返ってくる子、笑顔になり元気をもらい気分爽快です。自転車、斜め横断、並列、イヤホン装着、走行、雨天傘さし運転等、毎



日の事で慣れもあるかと思いますが、常に隣にある危険の自覚が必要かと思えます。登下校に気をつけ充実した学校生活を送って欲しいとマナーアツパに参加した保護者の一人として願います。

# 「第60回全国高P連大会」に参加して

生徒指導委員長 荻野 眞弓

日本武道館を会場に全国高等学校PTA関係者一万人有るの参加となる東京大会に八月二十・二十一日の日程にて高瀬教頭先生と保護者を含み五名で参加をさせていただきました。

## 国高等学校PTA連合会大



都立高校生による躍動感溢れる様々な演奏ダンス等のアトラクション。『人間力を育てて作る大きな輪』

家庭・学校・地域・社会と心をつなげよう』をテーマに開催された大会では、今の新社会人の長所・短所―企業が求める有意義な人材とは―と題してトヨタ自動車(株)取締役会長・張富士夫氏による基調講演が行われ、現代の若者に必要なのは柔軟かつ実践できる行動力、他人と協力し繋がり築ける人間性であることを学びました。分科会では他校のPTAの取組事例協議会に参加し、学校生活におけるPTAの役割の大切さを知りました。この経験をもとにこれからのPTA活動に役立てたいと思えます。

## 前橋祭り生徒指導

生徒指導副委員長 北澤 晴美

十月九日(土)前橋祭り巡視が行われました。前橋市役所に集合し校長先生をはじめ諸先生方、役員の方々と三班に分かれて出発しました。あいにくの雨模様で例年のようなにぎわいは無かったですがそのような中でも色とりどりのはつぴに身を包んだ担ぎ手達が祭りを盛り上げていました。巡視中に何かの生徒達に会いました。口頭での声掛けでしたが意識づけになったと思えます。生徒達の安全確保の為に今後も協力していきます。

前橋育英

# 雄渾

同窓会  
だより

## 風雪に耐え

同窓会長 関根 映一  
(第1期生 昭和40年度卒)



同窓会員の皆様、お元気でしようか。日頃より母校の発展の為、物心とともにお世話になり本当にありがとうございます。お陰様で前橋育英高校も今年で48年目になり、3年後平成25年には50周年を迎えます。卒業生も2万人を超え、名実共に私学の雄として群馬県高校の中で大きな存在となっております。ご存知のように、野球部創部初の甲子園を目指し、来春「センバツ」代表校になるために、今必死に戦っております。なんとか頑張ってもらいたいと願っております。又、サッカーも全国を目指し頑張っており、全国トップレベルの部活動が多く見受けられます。指導にあたっております先生、保護者の皆様に感謝申し上げます。

今年の夏は猛暑が続き、体調を崩した方が多く、熱中症で亡

くなった痛ましい事故もありました。その中、7月同窓会総会が実施され、役員交代、昨年より育英祭での同窓生の部屋の開催、募金活動の報告、同窓会館建設資金の積立などの再開が決定されました。さらに又後日、上毛新聞の「校歌」についてシリーズで我が母校もとりあげられ、インタビューを受けました。開校時には「校歌」はまだ出来てなかった。作詞を著名な詩人草野心平氏にお願いしたこと。又、一生懸命練習したことなどでした。後に新聞記者は母校の卒業生であったことが判り、親近感が持てました。

ところで最近暗いニュースばかりが目立つ中、世界中の人々から感動のドラマが生まれております。

一つ目は日本人2人のノーベル化学賞の受賞であります。二つ目はチリ鉱山落盤の救出であります。33人の生還は世界中の人々が涙と喜びに包まれたと思います。

私は支えた方々の事を考えます。恩師や家族、友人などへの励まし支え、出会いや勇気だと思えます。

どうか、同窓会員の皆様、厳しい状況の中でも勇気と励ましをもって頑張り続けましょう。

## 私の近況報告

東京消防庁消防官

明石 悠嗣(第35期生)



育英での3年間は、多くの優しく暖かい先生方にお世話になり、サッカー部の仲間、クラス仲間にも恵まれ、本当に幸せな青春時代でした。

しかし、大学へ進学し、プロサッカー選手の夢も潰れ、何となく学生生活を送っている時です。一緒に卒業した仲間がリーグで活躍する姿を見て、何も目標も持たず、ただ毎日やり過ごしている自分に気が付き、恥ずか

しく思う事さえありました。さらに、大学を卒業して、せつかく新卒で入社した会社での仕事にも身が入らず、淋しい毎日を送っていました。

そんな時に、両親から「消防官」の話をかけられました。幸い地元の人で、後押しもあり、「東京消防庁消防官になる」という目標に向かって努力する事を決め、意を決して会社を辞め、予備校へ通い始めました。

しかしこの目標は自分にとって想像以上に高く、7回落ちて8回目ようやく合格し、晴れて東京消防庁消防官になることができました。

私は今は「この車の運転手を目指して日々努力し、10月2日に結婚式を挙げ、素敵なお嫁さんをもらい、毎日幸せな日々を送っています。これも、前橋育英高校に入学し、最高の青春時代が送れたお陰だと思っています。

皆さんこんにちは。26年前、生徒会長を務めていました21期卒業生の川嶋です。現在はパソコンやマスカラなどのゴムを製造している会社の取締役工場長をしています。高校入学当初は、大人しく何の取り柄もなく人前で堂々と話せる人間にならなくて、放送無線部に入り校内番組の制作や校内放送を積極的にやらせてもらいました。その縁で文化祭実行委員もさせてもらい先輩方や先生方に可愛がって頂き、一年時のクラス代表で

## 親子二代同窓生

川嶋 知弘(第21期生)

美緒(第23期生)  
光(第48期生)



立候補し生徒会に入りました。その頃の育英高校はまだ発展途上で、先生方や保護者の方も生徒も皆、自分達の手で切り開いて行こうと、「前橋育英高校ここに有り」をモットーに突き進んでいる時代でした。そういう時期に大役を引き受けさせてもらい、あらゆる場面でスピーチし、育英祭、体育祭、20周年記念式典や予餞会等の学校行事で、人とのやり取りやリーダーシップなど多くを経験させてもらいました。今まで何か壁にぶつか

三山幼稚園勤務  
井上 真衣(第40期生)



す。前橋育英の卒業生である事を、本当に幸せに感じています。育英最高!!

私は現在、幼稚園教諭として二年目を迎えます。今年度は年少組(三歳児)の担任を勤めています。社会人として、まだまだ未熟で一日を乗り切ることで精一杯の毎日です。子ども達の笑顔、泣いた顔、怒った顔と色々な表情と成長が見られて、楽しく充実した日々でもあります。

在校時は、普通科のクラスで、当時はまだ幼稚園教諭とい

う道を選んでいませんでした。自分の進路が呆然としていて「福祉に興味があったというくらいでした。高校の三年間は友達と何をしても楽しく、毎日笑っていました。学校が休みの日が寂しく、本校が大好きでした。二年生の時に文化祭実行委員を務め、先輩方や友達とデザインから製作までしました。アーチとモニュメントをみんなで形にするまで苦労したので、完成した時のことを今でも覚えています。一人ではなくみんなでやり遂げる達成感は、時が経っても色あせることなく記憶に残ります。

職場でも同じく行事に向けて、みんなで準備する日々です。行事を無事に終える時の達成感、今までの苦労を全てプラスに変えてしまう程です。大好きな子ども達に「まいせんせい」と囲まれ幸せな日々です。

った時には、あの時頑張ったのだから必ず出来るはずだと私自身の支えになっています。

嬉しい事に息子も育英高校にお世話になる事が出来、親子二代同窓生になりました。ぜひ高校生活の中で、本気になれる事を探して欲しいと思っています。又、女房も生徒会役員の後輩で今も保育の道に携わっています。私達は、この高校から人生を見つけてもらおう事が出来ました。これからも共に頑張ろう前橋育英高校!!

# 後援会だより

## 更に輝く

### 前橋育英高校を夢見て

前橋育英高等学校  
後援会長

前田 勇



前橋育英高校後援会の皆様お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は本校発展のため物心両面のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本校は平成二十五年には創立50周年を迎えますが、私立高校として文武両道の特色ある素晴らしい実績を築いて参りました。

願みれば、私が昭和五十八年に父兄会長を務め

た頃の前橋育英高校は、スポーツも進学もまだまだきびしい時代だったと思います。当時の県高校総体の成績は、男子総合9位でした。又大学進学も国公立と私大を合わせて70名位でありました。

現在では第45回県総体で、昨年に引き続き6年連続、通算18回の男子総合優勝を果たす一方、平成二十二年度の大学入試の合格者は、国公立53名、私立大学407名と、私の父兄会長時代からみれば夢のような発展ぶりであります。これは、理事長・校長先生を先頭に、先生、生徒、保護者をはじめ、関係団体の皆様が「前橋育英高校」を誇れる良い学校にしようとする『想い』と『一念』があつたればこそだと思えます。

### 平成二十二年度・後援会定期総会開く

— 7月1日(木) ロイヤルホテル —

今年度の定期総会は、7月1日(木)に開かれました。当日は、会長・理事長・校長先生から、夫々あいさつと近況報告を受け、議事全般満場一致で承認されました。

本部役員には、新たに今年度保護者会長の小椋靖晃氏を後援会副会長に選出。他は、前田会長始め全役員が再

選されました。

クラブ活動の助成については、サッカー部に女子チームが誕生したことから、助成金の増額が認められました。後援会としては、スポーツ・文化の各クラブは勿論、育英生全体が充実した学校生活を送れるよう支援していきます。

### 秋の合同研修視察

— 今年度は慶應大学 湘南藤沢キャンパスへ —

恒例の後援会、同窓会、保護者会、学園協力会、退職教職員会、学園本部、学校関係者有志による研修視察旅行が11月13日(土)と14日(日)にかけて実施されました。参加者は、28名、朝7時過ぎに学校を出発。バスは一路視察先の慶應大学湘南藤沢キャンパスへと向いました。

今回は、これまでの先進私立高校視察とは趣を変え、大学訪問でした。さすが、私学の雄、陸の王者「慶應」。広大なキャンパスに新しさと伝統を備え、圧倒されました。

翌日は紅葉の箱根路へ。心も頭も満足いっぱいの日間でした。



箱根湖ノ景



慶應キャンパスにて

### 今年度の優秀育英生を表彰

後援会会則による、優秀生徒・クラブの顕彰が、11月19日(金)に、会長・校長同席の下、校長室にて行われました。今年度の対象者は、次のとおりです。



- 柔道部、白座康雄(3のB) 第32回全国高校柔道選手権大会・男子73kg級優勝
- ウエイトリフティング 石関紗愛(3の2)、第25回全国高校選抜重量挙げ大会・女子69kg級優勝
- 水泳部、正田達成(3のC) 第1回ユースオリンピック競技大会出場
- 男子バスケットボール部 岡部健太(3のB) 第21回FIBAアジアU-18男子選手権出場
- 吹奏楽部、第16回西関東吹奏楽コンクール銅賞

「たかが野球、されど野球」  
コラム育英  
今年のプロ野球ドラフト会議ほど、話題性に富んだ年はなかったと思う。  
早大の三投手が、そろって各球団一位の指名を受けたこと、中でも斎藤佑樹選手は、小・中生時代、太田生品で野球をし、早実から早大へ、その後の活躍は周知の通り。その斎藤選手と同じく、ドラフト一位指名を受けた高校生が群馬にいた。それは、前商の後藤駿太選手である。  
高校の一位指名は、全国広しと言えどわずか三名、その中に県内高校生が名を連ねるといふことは、素晴らしいことを超え、すごいことである。  
本県にゆかりのある両選手が、同じリーグで顔を合わせることがあるかどうか今後が楽しみである。  
今秋、野球の話題は尽きない。11月3日の早慶・慶早戦は、両校にとつては50年ぶりの優勝決定戦となり、神宮球場満員の大ファイバー。結果10対5で早大の勝ちとなった。  
同日、我が育英野球部も関東大会2回戦に進出。あわやベスト4入りかと思われたが惜敗。しかし、未だ甲子園への夢はつないでいる。  
勝つても負けても野球はドラマ。たかが野球、されど野球である。(S記)

# Science Partnership Project (文部科学省主催)

## 研究Ⅰ 味覚を操るミラクリン ～マジックからサイエンスへ～

前橋工科大学と連携、8月2～4日に前橋工科大学にて実施。

酸味を甘味に変える“ミラクリン”を題材にマウスの解剖、味覚修飾試験をおこない味覚について探求した。



### ● 1年1組 西谷 将真

今回の講座の中で驚いたことは、生物の感覚は電気信号で伝えられているということだ。「味覚は舌で感じ取るのではなく、脳で感じるものだ」という話が講義の中であったが、実際に組織を見ることで納得できた。今まで自分自身のことをよく知らないでいたことが不思議に思えた。味覚修飾試験で実際に操られてみると、ミラクリンの可能性がとても大きいことが実感できた。ただ、これを食品に組み込むことがまだ実現できていないので、早くこれが実現されて、人々の「笑顔」が作り出せるようになってほしいと思う。

## 研究Ⅱ 現代数学への誘い

～無限の姿・点と線の幾何学＝グラフ理論・結び目の話～  
群馬大学と連携、8月23～25日に本校及び群馬大教育学部にて実施。



### ● 2年5組 小野 拓哉

今回のプロジェクトに参加して、現代数学と呼ばれる最先端の数学に触れた。現代数学は、高校で学ぶ数学とはまったく異なったもので、とても興味深いものだった。普段、自分が気にもとめない結び目を数学的に分析し証明していくという発想が、とても珍しく難しいもので、私には想像もつかない証明の仕方であった。ほかにも、無限には、大小があって、偶数は無限個存在するなど、面白い発見がいくつもあった。機会があれば、もっと深く学んでみたいと思った。

## 成果発表会のご案内

是非とも本校生徒の発表をご覧ください。

## SSH・SPP等合同成果発表会

●開催日 平成23年3月12日(土)  
●場所 群馬音楽センター(高崎市)



前橋育英

去る11月6日、群馬音楽センターにて第16回群馬県高等学校総合文化祭が全県下96校の高等学校・養護学校が参加し、「個性のつぼみ今花開け」のテーマのもと開催された。オープニングセレモニーに続いて、各校の代表者による入場と学校紹介が行われた。育英高校は78校目となり、吹奏楽部の県コンクール優勝等文化活動の紹介を行った。また、和太鼓やハンドベルチャリ―ディングが披露され、全員合唱でダンス部のチアダンスも発表され、また美術部・書道部は展示発表した。

## 県総合文化祭開催

8年ぶりの秋季関東大会、群馬県硬式野球部顧問 中沢 洋一  
日頃は硬式野球部に対しあたたかい声援をいただき、有り難うございます。関東大会に際しても雨天順延で日程変更が相次ぐ中、心のこもった声援をいただき、重ねて感謝する次第です。

## 秋季関東高校野球大会を終えて

## 硬式野球部

第1位のプライドを胸に、一戦一戦全力でプレーするチャレンジャーとして臨みました。ピッチャーが粘り、打線が力強いスイングで奮起する。しかし、最後は全国大会常連の強豪校の底力に屈する。  
『前橋育英』の課題が明確になった大会でした。今後の指導に生かすとともに、日々の生活からの精進に努めます。更なる前進のために。有り難うございました。



## 高校生英語コンテスト

優勝 設楽竜一(3-1-7)  
準優勝 西澤真理子(2-1-1)

〔設楽君のコメント〕  
白石杯に向け、7月から1日2時間、ほぼ毎日練習してきました。優勝できたのは、熱心に指導して下さったシルバン先生をはじめ、多くの先生方のおかげです。心から感謝します。



左から 瀨間さん(2-1)・西澤さん・設楽君・シルバン先生

## 高校生クイズ出場

(写真右から) 草間・南雲・竹部 (3-8)



知力の甲子園と称される高校生クイズに群馬県代表として本校生徒が選ばれました。並みいる強豪を打ち破つての育英高校初出場です。竹部君はスポーツ・芸能、南雲君は雑学、草間君は理系問題とそれぞれの得意分野を生かしての群馬県大会優勝でした。幼稚園からの夢だったと語るリーダーの南雲君は「3人のチームワークをフルに生かし、恐れることなく挑みました」と意気揚々と語りました。

## 全国高校サッカー選手権 群馬県大会5連覇

サッカー部監督 山田 耕介

6月インターハイ県予選準々決勝、相手は桐生第一。GKのケガ退場で選手達は動揺し、先制されリズムをつかみきれなく結果1-2で敗れる。11月20日選手権県予選決勝、夏の敗戦からこの日の為にとやってきた。桐生第一に負けた屈辱を悔しさを思い出せ、うまくいかなくてもイライラするな。それもサッカー、冷静なフアイトこそ大切だ。自信と勇気をもって闘え。試合前のミーティングで、「男は、同じ相手には2度と負けない。お前達は、必ずやれる。自分を信じ、仲間を信じ、ピッチで思いっきりサッカーをやっつけてい」と送り出した。3-0で5年連続16度目の優勝。まだまだであるが、少しだけたくましくなったかなと思う。あと1ヶ月半、今度は全国の舞台で前育サッカーを力強く表現しよう。



## 題字が変わりました

新しい題字は、名誉理事長である中村有三先生揮毫によるものです。学校内には、中村先生の書がい



に飾られています。在校生のみなさんぜひ探してみてください!

## 編集後記

保護者会文化副委員長 五十嵐早苗

猛暑が過ぎ、寒い冬はやって来ないのかなと心配していましたが、日本の冬は確実にやってきました。

育英生も秋の大会での活気ある活躍が素晴らしいですね。三年生は進路に向かい今まで以上に力を発揮して夢をつかましましょう。合同紙も爽りが沢山詰まったものに仕上がりました。ありがとうございました。

## 合同紙広報委員

保護者会	石原美枝
学生会	石原和子
同窓会	五十嵐早苗
後援校	阿久津廣嗣
高学	阿久津典
学	岩川正博
園	竹川幸敏
"	安達幸祐
"	岡上友信
"	湯浅直美
"	宮澤千春